

記念の年によせて ハワイ大学交流30周年記念式典に臨んで

30th Anniversary of the Program with University of Hawai'i

神戸女子大学国際交流推進部 部長（文学部教授） アン・ケーリ
Ann Cary



「継続は力なり」ということわざを思い出します。神戸女子大学とハワイ大学の協定に先立ち、1981年に学生のための語学研修が始まりました。これまでに神戸女子大・短大は2,500名を超える研修生をホノルルへ送り出してきました。2011年9月2日に、ホノルルにてハワイ大学主催の両大学交流30周年記念式典と夏期語学研修修了式が執り行われました。開会式では、ハワイならではの音楽や踊りが披露され、そのあと挨拶と祝辞、昼食、そして30年の歴史をつづるスライドショー、修了式へと続き、出席者全員の紹介もありました。

式典と昼食会には、行吉 誠之理事長をはじめ、神戸女子大学波田 重照学長、短期大学長瀬 莊一学長、文学部英語英米文学科主任の海老 久人教授、ハワイセミナーハウス寮監である総務課岡野 時子課長補佐、国際交流推進事務室の奥野 なつき課員と私の7名に加え、15名の夏期語学研修生も出席しました。

ハワイ大学側からは総長ヴァージニア・ヒンシャー博士（Dr. Virginia Hinshaw）、アウトリー・チカレッジ学部長ウィリアム・チズマー博士（Dr. William Chismar）、同国際プログラム統括責任者ジュディ・エンシング氏（Judy Ensing）と10名の教員とスタッフに加え来賓として前アウトリー・チカレッジ学部長ピーター・タナカ氏（Dr. Peter Tanaka）もお見えでした。ヒンシャー総長、チズマー学部長、エンシング氏の皆様は祝辞で強調されたのが、いかに学園創設者の故行吉 哉女先生が教育者として先見の明を持たれていたか、です。行吉 哉女先生は、本学の学生達が広く世界に通用するコミュニケーション力を身につける手段の一つとして、留学・語学研修を確立する必要性を早くから説かれ、それを実現されました。そのヴィジョンへの深い尊敬と神戸女子大・短大生の留学先としてハワイ大学を選ばれたことに対する感謝の意を述べられました。以下、ヒンシャー総長の言葉を借りて、その内容をお伝えします。「今の時代にはグローバルな経験を持つこと、そして国境を超え世界の人々が共に歩んでいくにはそれぞれの能力を振り絞っていかねば、社会と人類の前進・進展は望めません。行吉 哉女先生は、30年以上前からすでに今の時代に向けての準備をされていたのです。行吉 哉女先生がはじめられた語学研修プログラムは大きく育ち、過去から現在、そして未来へと続くこの研修に参加する学生が、これからの日本を支える“living endowment”（生きた財産）となることは間違いありません」

今後もさらに工夫を加え、創造的に発展させながら継続されていくハワイ研修となりますように願ってやみません。



ハワイ大学総長ヒンシャー博士にお礼を贈呈する行吉理事長



アウトリー・チカレッジ学部長チズマー博士に記念誌を贈呈する波田学長



記念式典後の昼食会にて



2011年度夏期語学研修生

ハワイ大学交流の今

ハワイ大学セメスタープログラム(半期留学プログラム)

2007年から文学部英語英米文学科の「ハワイ大学セメスタープログラム」が開始されました。希望者は前期と後期に分かれ、約4ヶ月間の留学プログラムに参加します。ハワイ大学との交流30周年を迎えた2011年9月には第10期生を派遣しました。

ハワイ大学提供科目一覧表

| 科目名 | 単位数 | 科目名 | 単位数 |
|---|----------|--|-----|
| Special English Program | 2 | Integrated Skills | 2 |
| Intensive Spoken English Subjects (内訳) Oral Production | 6 (2) | Introduction to English as a Foreign Language / | 2 |
| Listening | (2) | English as a Second Language Teaching | |
| Grammar | (2) | Methods | |
| TOEFL Training | 1 | Volunteer Work | 2 |

ハワイセミナーハウス



セミナーハウスの様子

行吉学園は1989年6月にホノルルのヤング・ストリートにある鉄筋5階建てのマンションをセミナーハウスとして購入しました。ハワイ大学には徒歩で20分、市バスで6~7分の距離にあります。セミナーハウスは2人部屋で研修生は自炊をしながら共同生活をします。寮監が常勤し、研修生のいろいろな相談にのり、ハワイでの生活がもっと充実したものになるようサポートします。

ハワイ大学交流30年記念誌



ハワイ大学交流30周年記念誌
左は一般配布用、右は贈呈用

ハワイ大学との交流30周年を記念して「行吉学園・ハワイ大学マノア校交流30周年記念誌」が発行されました。ハワイ大学の先生方の祝辞、行吉理事長、大学波田学長の挨拶、以下関係する教職員の交流30周年にこめられた思いが綴られています。また、ハワイ大学の語学研修プログラムに参加した卒業生からの言葉、クアキニ病院実習が始められたいきさつなど充実した内容の記念誌ができました。日・英対訳の形式になっています。記念式典で、波田学長からハワイ大学に贈呈しました。編集にかかわった教員は以下のとおりです。

編集委員 アン・ケーリ 海老久人 湯谷和女
編集協力 林マーシャ 平田耕造 木村恵子 木下由紀子
安原順子 八日市屋多栄子

クアキニ病院での管理栄養士養成課程の実習



クアキニ病院を訪問。前列中央がカンフア院長、
後列左から2人が三木副院長

家政学部管理栄養士養成課程はノース・クアキニ・ストリートのクアキニ病院で病院実習を実施しています。これは、病院で行う臨床栄養学実習を日本国内と同じ内容でハワイで実施する病院実習であり、2002年から毎年2名ずつ派遣しています。実習を修了した学生は、ICU(集中治療室)の患者の栄養管理やNST(Nutrition Support Team=栄養サポートチーム)の見学が大変勉強になったなどの感想を述べています。

ハワイ大学交流30周年記念にあわせて、行吉理事長、大学波田学長、短大大学長瀬学長、ケーリ教授、海老教授、岡野課長補佐がクアキニ病院を訪問し、院長のゲイリー・カジワラ先生、副院長の三木 信幸先生と親交を深めました。

神戸女子大学古典芸能研究センター開設10周年記念講演会開催によせて 古典芸能研究センターのめざすところ

神戸女子大学古典芸能研究センター センター長(文学部教授) 阪口 弘之



神戸は、古典芸能の風土として、豊かなイメージを増幅してきました。

古くより都内の最も周縁と位置づけられたこの地は、それゆえ常に都が意識されてきました。月の光、波の音、松の聲に、流され人は、都へのなつかしさを募らせました。行平然り、源氏の君また然りです。一方で、海山間近く迫る要害の地は、都の覇権をかけた源平の激しい修羅の場と化しました。争乱の世を駆け抜けた武者たちの高名譚と背中合わせに、人の世の情けや哀れを誘う物語も生み出されました。神戸は、一見古典世界とは縁遠き地に思われがちですが、京都や大阪にも伍して特別な古典芸能風土を誇ります。

神戸女子大学古典芸能研究センターは、こうした芸能風土の地に、平成13年4月の設立以来、神戸ならではの独自の視座をもつ日本古典芸能の総合研究機関として活動してきました。具体的には、1能・狂言、2浄瑠璃・歌舞伎、3民俗芸能を三つの柱に、古典芸能の特質の解明に努め、その成果を学界および社会へ発信することを心がけてきました。

周知のように、日本古典芸能は、その成立経緯からみると、アジアや沖縄との関係視座の中で解明されるべきでしょう。他方で、上記諸芸能の淵源は、西宮、淡路、更には播州・摂州の寺社等にも辿れます。そうした点で神戸という地は、古くより海の回廊に開かれた窓口として、彼我の交流拠点としてあり、述べたような諸芸能の成立から今日までの発展の様相を長き時代にわたって関連にしてきました。私どもセンターも研究立脚点をその恵まれた立地性に求めてきました。その結果、導き出されたところが、グローバルな国際的視座と地域研究を結んでの総合研究拠点の形成です。ここ3、4年の公開行事を拾いあげても、沖縄文化の内地域化が進む中、沖縄祭祀データベースの構築、日本の最高知性を結集しての学術講演会「近松再発見」や貴重書展示会の実施、更にドナルド・キーン先生をお迎えしての国際シンポジウム「平家を神戸から」、あるいは「熊谷と敦盛」「松風村雨」「求塚」「兵庫の築島」など、地域ゆかりの伝承を取り上げての特別連続講座などは、センターの研究拠点のありようを世に問うものとして企画したものです。

古典芸能の総合的研究とは、日本文化研究そのものです。能、文楽(浄瑠璃)、歌舞伎と、次々に世界無形文化遺産に指定される日本の古典芸能を、彼我の視点から位置づける確かな研究拠点の構築整備が今待ち望まれています。そうした中で、本古典芸能研究センターは、「神戸(地域)」と芸能「神戸(地域)と世界」をキーワードに、地域に根ざす日本文化の普遍的特質を抽出し、日本古典芸能の新たな研究モデルを世界に発信する研究センターを目指したいと念じています。芸能研究における総合的視座は、たとえば諸芸能の混融と重層性、主要ジャンルの狭間に湮滅した芸能の掘り起こし、更にジャンル間をこえて伝搬をみる芸能の諸様相を明らかにして、芸能史研究の増幅と更新を約束するものと信じるからです。

本日の記念講演会も、ロバート・キャンベル先生にまさに世界的視座から「これからの日本古典芸能研究に期待されるもの」という演題でご講演を賜ります。十年の節目をむかえたセンターの、一段の高度化にもついでに率直なご意見をいただけるものと期待しています。

ご講演のあとは、文楽をお楽しみいただけます。演目物は、10周年を記念して「寿式三番叟」と、須磨ゆかりの「一谷嫩軍記」組打の段を素浄瑠璃で語っていただきます。前者を選んだのは、歴史を刻む祝言曲ということもありますが、この演目も、本センターが柱とする能、浄瑠璃、民俗芸能の三要素を併せ持つことによるものでした。荘重な儀式性と、一転して歡喜躍動する景事という両面から成るこの曲は、常に最高の顔合せで演じられることを約束とします。本日も素晴らしい熱演をご堪能ください。

ただ思ひもかけぬことに、企画検討のさなか、東日本大震災が発生しました。開催を見送るべきかとも考えましたが、むしろこの催しを通じて、被災された皆様への支援の思いを伝える道を選びました。今回の総タイトルを、東日本大震災復興支援「古典芸能の力、今この時」とさせていただいたのも、そうした思いからです。皆様方からいただきました入場料も全てを日本赤十字社を通じて被災地へ寄附させていただきます。一日も早い東北の復興をお祈りしたいと思います。

(古典芸能研究センター開設10周年 記念講演会プログラムより転載)

東日本大震災復興支援 古典芸能の力、今この時

— 神戸女子大学古典芸能研究センター開設10周年 —

神戸女子大学古典芸能研究センターでは、平成23年10月23日(日)、新神戸オリエンタル劇場(神戸市中央区北野町)において、「古典芸能の力、今この時」を開催しました。

満員の参加者をお迎えて、古典芸能のもつ豊かな可能性と魅力を問う素晴らしい催しとなりました。

■記念講演

「これからの日本古典芸能研究に期待されるもの」
ロバート・キャンベル 東京大学大学院総合文化研究科教授

■解説

「文楽上演よせて」
阪口弘之 古典芸能研究センター長

■文楽

| | | | |
|---------|-----|-----|------------------------|
| 「寿式三番叟」 | 太夫 | 翁 | 竹本津駒大夫 千歳 豊竹呂勢大夫 |
| | | 三番叟 | 豊竹咲甫大夫・豊竹芳穂大夫 |
| | 三味線 | | 鶴澤燕三・竹澤宗助・豊澤龍爾・鶴澤清公 |
| | 人形 | 翁 | 吉田和生 |
| | | 千歳 | 吉田陽彌 |
| | | 三番叟 | 桐竹陽十郎・吉田玉女 |

■素浄瑠璃

「一谷嫩軍記」 太夫 豊竹咲甫大夫
組打の段 三味線 鶴澤燕三



記念講演中のロバート・キャンベル教授

記念講演では、キャンベル教授が、日本の古典芸能の特徴と魅力は、演者自らが型や芸を愛護しながら同時に次世代へもつなぎ、長い時間をかけて成長にかかわり続け、観客はそれを見守り続けることであると、欧米の場合と比較しながらわかりやすくお話しくださいました。また、最新の研究動向として、個々の作品研究やジャンルを超えた、幅広い視野から考察した書物が紹介されました。日本人以上ともいべき軽妙洒落で、かつ奥深いお話しに皆々が聞き入りました。



文楽「寿式三番叟」

阪口センター長の解説では、演目・演者紹介のほか、「一谷嫩軍記」は、それまでのドラマ作法に定着していた「源氏は善、平家は悪」という典型的な枠組みにゆさぶりをかけた画期的な身替り劇であるという話がありました。

能「翁」をうつつした文楽「寿式三番叟」では、太夫や三味線が一列に並んだ華やかな舞台で、まず千歳と翁が登場し、賑やかな舞を見せました。続いて、三番叟の人形二体が派手な装束で登場、息のあった躍動感あふれる連れ舞を熱演しました。三番叟が踊りの合間に手に持った鈴で相方をつついたり、踊り疲れて扇をつかいながら一息ついたりする滑稽な仕草に、客席からは笑いが起こっていました。

「一谷嫩軍記」は、太夫の語りや三味線のみの素浄瑠璃でしたが、熊谷と敦盛の対決を目の当たりにしているかのような迫力に皆熱心に聞き入り、後半には忍び泣きも聞かれました。

実演後の数分間、キャンベル教授と司会者(文学部 大谷 節子教授)による即興のミニ「[.]ブンガク(※注)」講義があり、会場が沸きました。最後に、当日のご厚志を日本赤十字社へ寄附する義援金贈呈式がおこなわれ、閉会となりました。



素浄瑠璃「一谷嫩軍記」組打の段

この催しは、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会をはじめ多くの報道機関の後援をいただき、おかげさまで無事終了することができました。心より御礼申し上げます。

(※注)NHK教育テレビの語学教育番組。司会のキャンベル教授が英語に翻訳された日本の文学作品を紹介している。